

呼吸器内科

1. 目的と特徴

呼吸器内科専門医としての総合的かつエビデンスに基づいた問題解決能力と診療技術を習得し、医学・医療全般に通じる幅広い見識と高い倫理観を持った臨床医を養成することを目的とする。また、初期臨床研修終了後4年目に日本内科学会内科専門医を取得し、その後、日本内科学会総合内科専門医をはじめ日本呼吸器学会専門医、日本アレルギー学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会専門医などを旨とする。さらに、医学博士号の取得のため、上級研究者の指導下で研究活動を併行して行うことや、臨床大学院への入学も可能である。

当施設の特徴は、平成2年に呼吸器外科とともに設立された呼吸器センターを構成し、平成21年より第1病棟8階の新病棟に移転し、呼吸器内科としての年間の外来患者数は35,000例、入院患者数は600例余であり、全国でも最も症例数の多い呼吸器内科の一つである。呼吸器外科、放射線科、麻酔科、病理科と緊密な連携のもと、呼吸器疾患を総合的に診断・治療するための教育体制を整備しており、これまで数多くの優れた呼吸器内科専門医を育成してきている。また、気管支鏡シミュレーターを導入し、超音波気管支鏡 (EBUS)の実技訓練も行えるモデルやクライオセラピーを日本で初めて導入した。診療は呼吸器感染症、肺癌、気管支喘息、COPD、間質性肺炎、アレルギー疾患、睡眠時無呼吸症候群、急性肺障害などすべての呼吸器疾患を網羅し、各々の専門医を中核とする診療チームが直接担当しながら後期研修を実践している。2019年より東京都のアレルギー専門病院になっている。

2. 指導スタッフ

教授・基幹分野長	多賀谷悦子
教授	桂 秀樹
特任教授	近藤 光子
講師	八木 理充
講師	有村 健
准講師	赤羽 朋博

3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学呼吸器内科

研修協力施設：東京都立大久保病院、茨城県立がんセンター中央病院、済生会加須病院、河北総合病院、立川総合病院、東京都立広尾病院、国立病院機構東京病院、東京警察病院、東京女子医科大学八千代医療センター、東京女子医科大学足立医療センター

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

臨床医として豊かな人間性、幅広い見識、社会に貢献する使命感と責任を持つとともに、前期研修で習得した一般内科学を基礎とし、呼吸器内科専門医としての高度な知識と診療技術を会得する。

B：行動目標

- 1) 内科診療に必要な基礎知識を修得し、臨床に応用する。
- 2) 内科診療に必要な検査・処置に習熟し、臨床に応用する。
- 3) メディカルスタッフと協力し患者の問題点を解決する。
- 4) 患者、家族の訴えを真摯に聞き、患者の苦痛に思いやりを示す。
- 5) 患者、家族に病状、治療方針を説明する。
- 6) 医療安全管理の基本を説明し、実践する。

- 7) 病態を把握し、適切な検査を実施する。
- 8) 治療方針について上級医、指導医と相談する。
- 9) カンファレンスに参加して、討論する。
- 10) 最新の医療情報を取得する。
- 11) 学会に参加し、発表する。発表内容を論文として投稿する。
- 12) 医療記録（診療録、検査記録、病歴要約）、診断書、報告書を遅滞なく正確に記載する。
- 13) 気管支鏡検査、超音波内視鏡、経気管支肺生検、経皮肺生検、CTガイド下肺生検、胸腔穿刺、胸膜生検の手技を習得する。
- 14) 胸腔鏡の助手をする。
- 15) 日本内科学会総合内科専門医を取得する。
- 16) 日本呼吸器学会専門医、日本アレルギー学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会専門医を取得する。
- 17) 上記すべてにおいて下級後期臨床研修医を指導する。

C：年次別研修スケジュールと研修内容概略

以下は基本的なスケジュールであり、変更となることがある。

	研修場所	内 容
1年	病棟・検査・ 内科ローテーション	入院患者の診断・治療・管理、画像診断、気管支鏡、超音波、呼吸機能検査、肺生検、肺病理、学会発表
2年	出張	入院・外来患者の診断・治療・管理、画像診断、気管支鏡、肺生検、
3年	病棟・検査	入院患者の診断・治療・管理、画像診断、気管支鏡、胸腔鏡、縦隔鏡、超音波、呼吸機能検査、肺生検、肺病理、学会発表
4年	病棟・検査・外来 関連他科	入院・外来患者の診断・治療・管理、内視鏡、肺生検、学会発表、Subspeciality選択、臨床呼吸機能講習会受講、放射線科、内科専門医試験
5年	病棟・検査・外来	病棟チーフレジデント、外来診療、学生・下級後期臨床研修医の指導、学会発表、日本呼吸器学会専門医試験

D：研修内容

以下は基本的なスケジュールであり、変更となることがある。

	午 前		午 後	
月	抄読会	病棟	TBLB	呼吸器疾患クルーズ
火		病棟・気管支鏡検査	病棟	
水		病棟	病棟	診療グループカンファランス TBLBカンファランス
木	新患報告 症例検討会 退院報告	教授回診	医局会 TBLB 病棟	呼吸器合同カンファランス (呼吸器内科・呼吸器外科・ 放射線科・病理科)
金		病棟	病棟	
土		病棟		

E：評価

診療グループのグループリーダー、教育担当統括指導医、病棟医長、医局長、あるいはメディカルスタッフから逐次形成的評価を受ける。評価内容は随時教授・基幹分野長に報告され、評価内容が評価シートにてフィードバックされる。

カンファレンス・研究会・学会の発表内容、発表態度がスタッフから評価される。

日本内科学会認定医への申請、症例リストが評価される。

日本呼吸器学会専門医への申請、論文の投稿にて評価される。

5. 後期臨床研修修了後の進路

後期臨床研修修了後、東京女子医科大学呼吸器内科に就職を希望するものは、呼吸器内科教授・基幹分野長と相談し、助手もしくは助教として採用も可能。

また、国内留学（国立成育医療センター、国立国際医療研究センター）、海外留学も研修修了後に可能である。（留学先：バンダービルト大学、マギル大学、カリフォルニア大学（UCLA、UCSF）、プリティッシュコロンビア大学、ピッツバーグ大学、ネブラスカ大学、ハーバード大学、スタンフォード大学、バージニアコモンウェルス大学、ロンドン大学など）

6. 学位

研究論文が掲載された後、教授・基幹分野長との協議のもと、医学博士の学位の申請が可能である。当院では臨床大学院のシステムがあり臨床大学院生は博士課程の修了時に医学博士の学位が授与される。

7. 認定医・専門医

当科で取得できる認定医・専門医は下記のとおりであり、それぞれのカリキュラムに応じた研修コースを設置している。

- ・日本内科学会内科専門医（最短で卒後6年目に取得可能）
内科専攻医3年間、内1年～1年半の地域での研修
内科全領域から29症例、剖検症例1例、外科紹介症例2例の病歴要約
- ・日本内科学会総合内科専門医（最短で卒後9年目に取得可能）
内科全領域から10症例の病歴要約
- ・日本呼吸器学会専門医（最短で卒後7年で取得可能）
内科専門医取得1年後、呼吸器病関連の論文3篇以上かつ関連学会での発表3篇以上
4年以上の会員歴（申請時）
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定医（最短で卒後7年で取得可能）
5年間の気管支鏡診療件数150例（術者あるいは助手）
5年間に総会参加2回、気管支鏡セミナーまたは支部会講習会1回
5年以上の会員歴（申請時）
- ・日本アレルギー学会専門医（最短で卒後7年で取得可能）
内科認定医習得かつ6年間の臨床研修歴
少なくとも3年以上の認定施設での臨床研修
学術集会参加3回を含むアレルギー学の業績、受け持ち患者40例のリスト
5年以上の会員歴（申請時）
- ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医（最短で卒後6年で取得可能）
内科認定医取得
がん診療に関する業績（学会発表2件、論文発表1件）
教育セミナー参加を含む業績（関連学術集会）

また、日本医師会認定産業医、インфекションコントロールドクター(ICD)、日本老年医学会認定老年病専門医、日本感染学会認定感染症専門医、日本気管食道科学会認定気管食道科専門医、日本がん治療認定医も取得可能

8. 問い合わせ先

下記まで直接電話あるいはFax、e-mailにて：

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
東京女子医科大学呼吸器内科
医局長 八木理充

TEL : 03-3353-8111 (内線 37112)

FAX : 03-5269-7616

e-mail : yagi.osamitsu@twmu.ac.jp